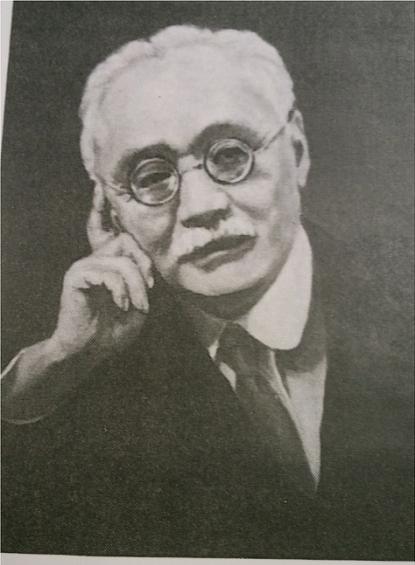


写真でたどる野村洋三の生涯 1870年(明治3年)～1965年(昭和40年)



新渡戸稲造 (フレンズ図書館蔵)。

明治24年アメリカからの帰国途中、**新渡戸稲造**と知り合い、サムライ商会を始める。

「太平洋をかける橋を目指して」



大正2年 55歳頃の釈宗演老師 (1913年) 大正8年(1919年)11月1日 61歳

新渡戸稲造の紹介で**円覚寺管長 釈宗演**を尋ね禅を学ぶ。生涯の師と仰ぐ。**原三溪**を紹介され

二人は**横浜発展**のため尽力する。

明治3年 大野町公郷に生まれる。

京都や東京(今の早稲田大学)で学び、渡米。



明治26年アメリカのシカゴへ**世界宗教者会議**に通訳として出席。釈宗演・島地黙雷・八淵播龍・土宜法龍等と参加。初めて世界に仏教を発信する。



サムライ商会店舗。奇抜な店構えと高品質と低価格で世界的な有名な古美術商として横浜港の顔となる。



大野町から父 兵作を迎えて。サムライ商会の日本家屋にて、洋三と美智夫人と子供4人と共に。



インドの詩聖**タゴール**を三溪園に案内する三溪と洋三。明治時代民間外交の先駆けとして国際交流に貢献した。



昭和13年から**ホテル ニューグランド**の経営。横浜の顔として活躍。終戦後ここでマッカーサーを迎えた。



ライシャワー米国大使と共に。戦後、横浜商工会議所会頭、日本商工会議所副会頭も歴任。横浜の復興と発展のためリーダーとして活躍。ロータリークラブも立ち上げる。



横浜日米協会の発会式にて。ライシャワー大使と共に。初代会長として発会の昭和27年から昭和40年に亡くなるまで、終生、会長として活躍。



マッカーサーⅡ世を迎えて。



神奈川知事と横浜市長と共に吉田茂首相を迎えて。



昭和40年95歳で世界。洋三の代りに釈宗演の通訳として渡米、その後世界的な哲学者として活躍した鈴木大拙とは生涯の友として交流する。仲人を洋三が、葬儀委員長を大拙が務めた。

亡くなる2前年前。ベレー帽とステッキの散歩姿や ホテルで客に握手をして挨拶する姿は「ミスターシェイクハンド」として横浜名物であった。